

2026年度 医学部 IR 報告書

— 2025年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・
コンピテンシー到達度調査（学生自己評価） —



藤田医科大学 IR 推進センター
医学部 IR 分室

2026年4月1日

藤田医科大学 IR 推進センター

医学部 IR 分室

2026 年度 医学部 IR 報告書

— 2025 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・
コンピテンシー到達度調査（学生自己評価） —

1. 背景と目的

2. 方法

3. 結果・考察

2026 年度 医学部 IR 報告書

— 2025 年度卒業生を対象とした卒業コンピテンス・

コンピテンスー到達度調査（学生自己評価） — について

本学の教育目標を達成するため、教育及び学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的とし、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医学部 IR 分室では、2025 年度医学部卒業生を対象として卒業時卒業コンピテンス・コンピテンスーの到達度調査（学生自己評価）を実施・分析しましたので、結果についてご報告いたします。

2026 年 4 月 1 日

2025 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医学部 I R 分室

古澤彰浩、高村真広、金子祥子、中村早紀、中西紗也加、島向健太、
飯塚成志、国田勝行、一瀬千穂、浦久保秀俊、藤江里衣子、吉本潤一郎

謝辞

本調査の実施・データ収集にあたっては、医学部学務課・平川和磨氏に多大なご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

1. 背景と目的

本学医学部は従来プロセス基盤型教育を行ってきたが、2015 年度第 1～3 学年よりアウトカム（学習成果）基盤型教育を採り入れた新カリキュラムに移行している。これに伴い、医学部では卒業時にすべての卒業生が身につける能力として「卒業コンピテンス（I～VII の 7 領域）」「卒業コンピテンシー（計 37 項目、現在 35 項目）」を定めた。低学年から各科目で段階的に実践力（応用力）を積み上げていき、卒業時に身につける能力をパフォーマンス・レベルとして評価するものである。

このような手法は全国の多くの医学部・医科大学で採用されているが、現時点では卒業コンピテンス・コンピテンシーに対する有効な評価方法は確立していない。知識や診察・診療技術は従来型の様々な試験で評価可能としても、プロフェッショナリズム・コミュニケーション能力・専門職連携の実践・独創的探究心等が卒業時に実践できることをどのような手法で評価するのは難しい問題である。そもそもどの程度、どう実践できればよいかの基準が明確となっていない。従来こうした項目は信頼性・妥当性を有する方法では評価されずに、あるいは評価のないままに卒業させていたということもできる。

しかしながらこうした項目について、各学年においてどの程度修得しているかを調査し、カリキュラムに反映させていくことの重要性は論を待たない。そこで 2017 年度以降、本学では卒業時において卒業コンピテンス・コンピテンシー到達度の自己評価アンケートを実施している。結果は医学部のカリキュラム全体を俯瞰した改善に資するために利用するものとする。

2. 方法

1) 調査実施日・会場

2026年2月9日(月)(医師国家試験実施翌日)、本学内で開催された医学部6年生学生集会において実施した。

2) 対象者・回答者、回答方法

対象者は2025年度医学部卒業生111名とした。医学部IR分室長が本調査の目的・方法を口頭で説明して調査参加を依頼した。回答方法は、調査フォーム(巻末に掲載)をMoodleで作成し、対象者がこれにアクセスして回答する形式を採用した。対象者全員に回答してもらうため、医学部IR分室長が回答者をMoodleで把握し、未回答者には回答を促した。その結果、111名全員から回答が得られた(回答率:100%)。

3) 調査項目

現在の卒業コンピテンシー項目は、2024年12月12日に改正されたものが最新である。一方、本調査の対象となる卒業生の大多数は2020年4月に入学しており、入学時点で適用されていたコンピテンシーに基づいて教育を受けている。このため、本調査では、教育課程との整合性および学修成果の適切な評価を確保する観点から、当該入学時点のコンピテンシー35項目を使用した。

各卒業コンピテンシー35項目に対し、調査時点(卒業時)においてどの程度到達しているかについて、6段階リッカート尺度により自己評価した。回答選択肢(得点)は以下の通りであった:「完全に修得できた(6点)」「概ね修得できた(5点)」「最低水準は修得できた(4点)」「ある程度修得したが、最低水準には届かない(3点)」「十分に修得できていない(2点)」「全く修得できていない(1点)」。

3) 分析方法

卒業コンピテンシー35項目の回答結果を基に、各項目、全項目、および卒業コンピテンス(I~VIIの各領域)の平均点と標準偏差を算出した。

また、2023・2024年度卒業生と卒業コンピテンス(I~VIIの各領域)の平均値を比較し、各領域のトレンドについても検討した。

分析においては、氏名・学籍番号などの個人を特定できる情報を除いた連結不可能匿名化データを作成し使用した。分析にはマイクロソフト社製Excelを使用した。

3. 結果・考察

1) 2025 年度卒業生の自己評価 (図 1)

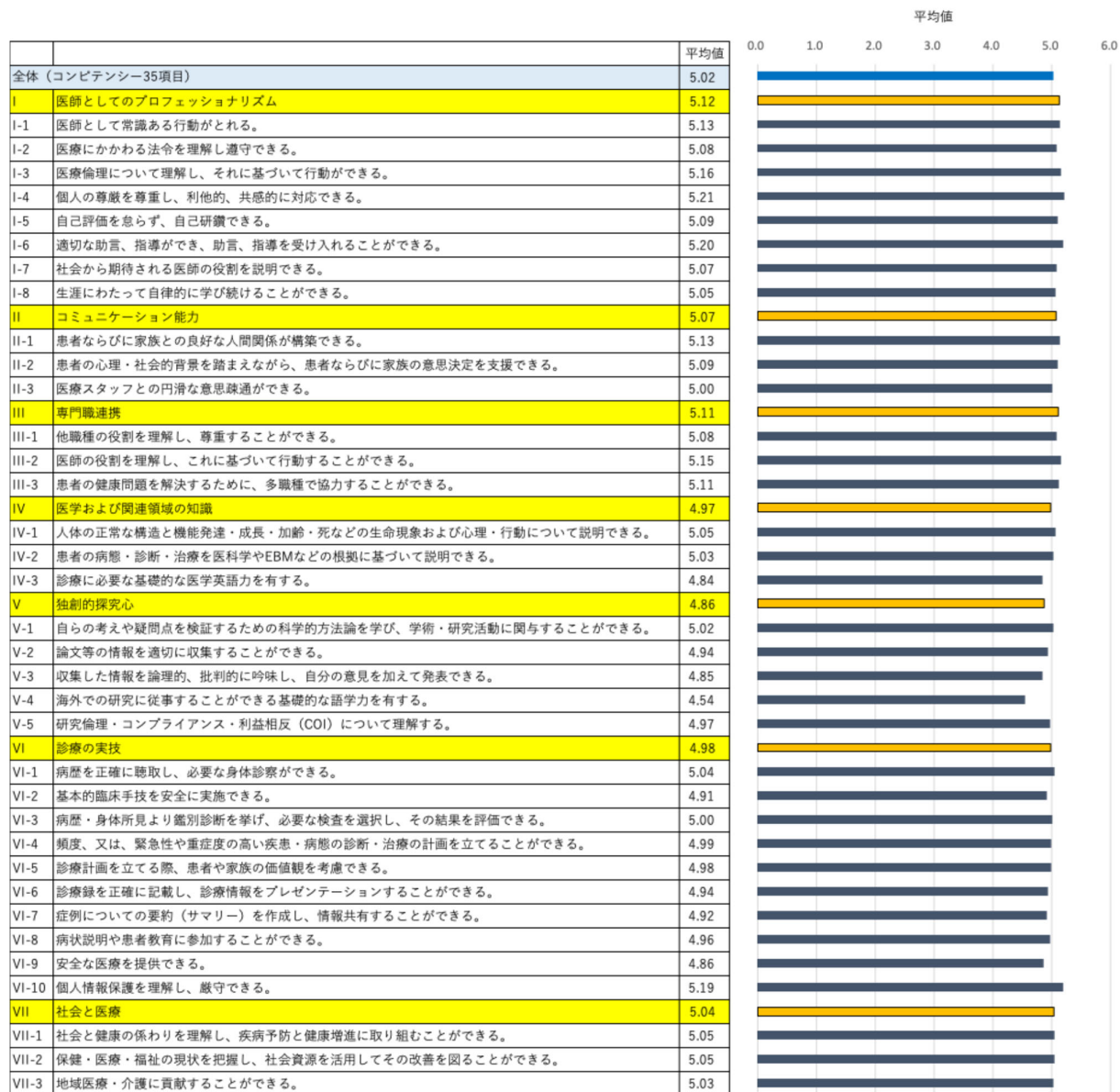
コンピテンス 7 領域各々の 6 段階評価の平均はそれぞれ 4.86 ~ 5.12、コンピテンス 35 項目の全平均は 5.02、項目ごとの平均値は 4.54~5.21、標準偏差は一部を除いて 0.7~0.9 の範囲であった。回答のほとんどは「最低水準は修得できた (4 点)」、「概ね修得できた (5 点)」、「完全に習得できた (6 点)」の肯定的回答に集中しており、学生はほぼ全ての項目について達成できたと自己評価している。

平均値が 5 を超えるコンピテンス「I 医師としてのプロフェッショナルリズム」(5.12)、「II コミュニケーション能力」(5.07)、「III 専門職連携」(5.11)、「VII 社会と医療」(5.04) については関連するコンピテンス 17 項目の全てで平均が 5 を超えており、非常に高い自己評価となっている。このことはプロフェッショナルリズム教育を通して本学の理念「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己を驕ることなく医を行わん」を十分に理解し、医師としての人間性、倫理観や協調性に自信を持つ卒業生が多かったためと思われる。「II コミュニケーション能力」「III 専門職連携」「VII 社会と医療」については、全学部学科の学生が参加して行う本学独自の多職種連携教育であるアセンブリ教育の寄与も大きいと考えられる。

コンピテンス「IV 医学および関連領域の知識」「V 独創的探究心」においては語学力を除く項目についても 4.8~5.2 と 5 前後の平均値となっており、安定して高い。診療参加型臨床実習による実践力の養成やスチューデントリサーチャープログラムをはじめとするリサーチマインド育成プログラムの効果の表れと考えることができる。

語学力に関するコンピテンス項目「V-4 海外での研究に従事することができる基礎的な語学力を有する」は他の項目に比べて若干低い (4.54) 数値となっており、これが「V 独創的探究心」の平均値を他の領域に比べて下げている原因であるが、この項目の平均値は 2020 年度卒業生から 2025 年度卒業生にかけて、順に、3.97、4.15、4.46、4.30、4.46、4.54 と増加傾向にあり、近年の英語教育の改善の効果が現れてきていると思われる。

図1. 2025年度医学部卒業生の卒業コンピテンス・コンピテンシー自己評価



2) 2023～2025 年度卒業生の比較 (図 2)

卒業コンピテンス 7 領域の自己評価平均値は、2023 年度から 2025 年度にかけて全体として緩やかな上昇傾向を示しており、2025 年度はすべての領域において 2024 年度と同等もしくはそれを上回る水準となった。全体平均も 4.94 (2023 年度卒業生)、4.97 (2024 年度卒業生) から 5.02 (2025 年度卒業生) へと上昇しており、本学の教育成果が安定的に維持・向上していることが示唆される。

一方で、過去と同様に「V 独創的探究心」は他領域と比較して相対的に低い値にとどまっている。しかしながら、2023 年度 4.69、2024 年度 4.73 から 2025 年度 4.86 へと着実な向上が認められた。この改善は主に語学力に関連する項目の向上に加え、研究活動や情報収集・発信に関する能力の底上げによるものと考えられる。その結果、領域間の差は縮小しつつあり、全体としてより均質なコンピテンスの到達状況へと近づいている。

今後は、引き続き独創的探究心のさらなる向上を図るとともに、語学力を含む研究基盤能力の強化を目的とした教育の充実が求められる。特に、高度医療人材養成拠点形成事業により拡充されているチュードレントアシスタント制度は、学生が研究活動に主体的に関与する機会を増やし、研究遂行能力の涵養に寄与することが期待される。また、J-PEAKS 事業による研究活動の国際展開は、国際的な研究環境への接続を促進し、語学力を含む研究基盤能力の向上に資する重要な取り組みである。さらに、全体として高水準を維持している他領域についても、その質的向上を意識した継続的なカリキュラム改善を行うことが重要である。

図2. 2023～2025年度医学部卒業生の卒業コンピテンス自己評価平均値の比較

	2023年度	2024年度	2025年度
全体	4.94	4.97	5.02
I 医師としてのプロフェッショナリズム	5.04	5.08	5.12
II コミュニケーション能力	5.05	5.07	5.07
III 専門職連携	5.10	5.12	5.11
IV 医学および関連領域の知識	4.86	4.84	4.97
V 独創的探究心	4.69	4.73	4.86
VI 診療の実技	4.91	4.97	4.98
VII 社会と医療	5.01	5.00	5.04

